

業務部速報



No. 39

発行 20. 12. 24

JR東労組 業務部

コロナ禍において感染が拡大している危機的な状況を踏まえ、問題意識を述べる！

「社員の多様な働き方のさらなる推進について」の議論の中で、以下の点を主張しました！

【組合】

- ・JR 東労組は、コロナ禍における社会状況や、第1四半期決算などの情勢を踏まえて、雇用と職場を守るためのJR 東労組緊急提言を9月9日に発出して議論を展開している
- ・全組合員でおかれている現状を認識した危機感のもと、多様な変化の中においても安全を守ることを最大の価値基軸に据え、健全な経営基盤の構築を目指す諸施策に対しても向き合っている
- ・今後においても安全・健康・ゆとりが損なわれる事象などについては、労使議論で解決していくスタンスも変わらない
- ・コロナ禍で、感染しない・させないための対応など、その必要を改めて捉え返し、輸送の安全性を訴えていく必要があると改めて認識している
- ・第3波といわれる状況で、Go To トラベルキャンペーンが一時停止、12月21日には医療緊急事態宣言が発出されるなど、収束どころか拡大の一途をたどっていると言わざるを得ない状況においても系統を問わず、組合員・社員は使命を全うするべく尽力している
- ・施策などの提案と合わせて、会社として社員自身の感染防止の徹底や、安心してご利用いただくための消毒作業、車内換気、案内放送などの協力について、社員に呼びかけるべきだと考える
- ・マスク、消毒液、石鹸、ペーパータオルなどの万一の供給不足に備え備蓄を確保し、社員の安心感を同時に得るべきと考えている
- ・不測の事態に備えた要員配置等の備えも確立すべきである
- ・多様な変化が求められている中で、改めてコロナ禍における環境整備も必要である
- ・年末年始輸送は12月10日から始まっている。職場は、目に見えないウイルスにより、自己管理をしていても罹患してしまう現実に対する不安や、今後の生活環境についても不安などの声も増している
- ・本部は、職場からの悲痛な叫びや、切実な声、そして会社への期待の声を受けて、11月11日に申8号にて「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う環境改善等に関する申し入れ」を行った。申1号も含めて、会社の提起だけではなく、働く側の提起に対しても真摯に向き合い、受け入れていくことも求められている

【会社】

- ・社会全体が不安に包まれている状況において輸送を守り、変革2027を進めている
- ・社会が不安に包まれている中で、インフラ企業として、JR 東日本から不安を感じさないように、安全を自ら守り、感染予防を引き続き行わなければいけない
- ・備蓄の要請など、しっかりとやっていく。そこは貴側と変わらない

**コロナ禍においても
安全を確保し全組合員で
年末年始輸送を乗り越えよう！**

